

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	放課後等デイサービス わっか		
○保護者評価実施期間	R6年 10月 19日		～ R6年 11月 2日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	8	(回答者数) 8
○従業者評価実施期間	R6年 10月 1日		～ R6年 10月 31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	4	(回答者数) 4
○事業者向け自己評価表作成日	R7年 3月 12日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	個別的な関わりの時間が多くとれることでお子さんの状態・状況に応じて臨機応変に対応がとりやすいこと。周囲の環境にも恵まれており、戸外活動に出る機会も多く、身体を動かしながら気持ちの充足を図ることができている。通所を楽しみにしていただいているお子さんも多い。	活動がマンネリ化しないように、営業開始前には打合せを行い、その日の活動について話し合いを行う。そのうえで、学校やご家庭での様子に合わせ、臨機応変に活動を行っている。	月替わりで担当者を決め、新たにお子さんが楽しく活動に参加できるように、集団活動や制作活動を考えている。戸外だけでなく室内でも遊びを通じて他者との関わりが楽しく安心できるものである、ということを学んでいただけるよう考えている。
2	送迎の際にご家族様とお話しさせていただき、必要に応じて直接の面談や電話でも小まめに連携を図っている。	お子さんご様子だけでなく、ご家族様の様子にも注目し、お声を掛けさせていただいている。学校やご家庭での様子によっては関係者会議の設定などを相談支援員へ持ちかけるようにし、各事業所・学校と大きな支援のぶれがないようにもしている。	引き続き、ご家庭・学校・各事業所と連携を図り、お子さんにもご家族にも安心してご利用いただけるよう努める。
3	長期休暇や学校休業日には公共交通機関を利用したのレクリエーション活動や調理実習・おやつ作り等を行う。お子さんの「やりたい」「できた」を積み重ねる活動の設定。	お子さんが楽しく社会体験ができるよう、お子さんからの「やりたい!」の発信を受け止め活動に反映させる。発信が難しいお子さんも多いため、様々な活動を考え体験していただくことで「好き」をたくさん見つけるようにしていく。	障がい特性などによってはなかなか社会体験の経験に乏しいお子さんも居られる。何度も繰り返しの体験が必要だと感じる。これからも引き続き、お子さんの声やご家族のご希望を伺いながら、将来的に好きな活動が見つかるような活動を設定する。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	放課後児童クラブや児童館、地域のお子さんとの活動をする機会がない。	同じ環境が落ち着くお子さんも多く、なかなか活動の設定に踏み切れない。ご家族からのご要望も出ていない。	前向きに交流活動に関して考えていく。楽しく活動ができることを第一に、しっかりと計画を立てる必要がある。どこの児童クラブや児童館との交流にするのかも綿密な計画が必要。
2	ご家族様同士の交流やごきょうだい向けのイベントができていない。	茶話会として年に一度、職員・ご家族様との交流やご家族様同士の交流の機会を設けるようにしているものの、設定しきらずに終わってしまうことがある。ごきょうだい向けのイベントも考え切れない。	まずは茶話会を確実に開催できるよう計画する。ごきょうだいに向けてのイベントも考えていくが、感染対策に法人内にとどめていたイベントが外部参加可能になるため、ご家族様皆様に参加していただけるよう準備を進める。
3	外部評価を受ける機会がない。	例年課題に上がる。法人の第三者委員があるため、外部評価をお願いすることを検討している。	第三者委員に外部評価をお願いしていくことを検討する。